
スリップ・アップ・キャンパスノート：幸せになる為の6ページ

棒人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スリップ・アップ・キャンパスノート：幸せになる為の6ページ

【Nコード】

N0551BA

【作者名】

棒人間

【あらすじ】

ある女の子がノートを拾いました。

新世界の神が拾ったノートとは違います。

削除とか、新世界の神にはなりません。

幸せへの入り口

「ごめん、俺はお前とは付き合えない。お前のことは好きだよ。だけど…近すぎてお前の事兄妹みたいにしが見れないんだ。」

必死の告白の答えがこれだった。

頭がガンガンして立ち眩みがした。

…嘘でしょ？

目の前が真っ暗になるって言うけど本当なんだね。

だんだん世界が色褪せて暗く成っていくよ。

もうなんだろう…私ピエロみたい。

舞台の上で一生懸命に芸を披露したのに彼が見てたのはヒロインの事だったの？

彼は少し俯きながら何かしゃべっていたみたいだけど何も聞こえなかったし見えなかった。

「諦めきれないよ…。」

ぼそつと呟いた。

もう彼は何処かに行ってしまったけど。

ポロポロの心を引きずりながら近くの小さな神社に行った。
小さい頃ここでよく彼と遊んだ。

相談事だった。

辛かった事も、嬉しかった事も、全部全部ここで話したんだ。

…ここで告白したら彼も想いに応えてくれたかな？

枯葉が一枚はらりと私の足下に落ちた。

最後の1枚だったらしい。

もう年を越したのによく木にぶら下がっていたものだね。

風が急に吹いてきて私はスカートを抑えた。

枯葉はもう何処かに吹き飛んでいた。

…早く春、来ないかな。

冬は風が冷たくてやってらんないんだよ。

石段に腰を降ろして両手をこすり合わせてから体を丸め、目をぎゅ
っと瞑った。

ああ寒い。

暫くした後、目を開けると既に日は沈みかけていた。

まずいと思い手を着き立ち上がるうとする。石のひやっとした冷た
さはなく、何か紙の様なものを触った。

一瞬動きを止め、ノートを手にとった。

ここに来た時は何も無かったはずなのに…。

周りをきよろきよろと確認するが誰も居ない。

角がちよつと潰れてたり、汚れたりしていたけど特に変わった様子

は無いノート。
ばらっと1ページ目何も無し。
2ページ目、3ページ目も無し。
詰まらない。

ノートを広げたまま石段に座りもつと早く告白すれば良かったのか
な、とうじうじしていた。
だが、もうじき暗くなる事に気付きノートを閉じようとしたその時
だった。

何も書かれていなかったページに文字が浮かんだ。

『200X年2月21日*曜日』

『私はこの日…』

どンドン浮かび上がっていく文字。
なんなのこれ？

なんで私の事をこんなに細かく知ってるの？

ノートにはすごい勢いでこの日の出来事が書き込まれていく。
書き込みが終わる頃には目の前のページは細かい字で黒く染め上が
った。

完全に私のこの日の行動、出来事だった。

私が忘れていた事さえ書かれている。

あまりの事に怖くて体が動かなく成っていたが、ある1つの思いが
頭の中で生まれた。

『この日に戻れたら。』

誰でもある事かも知れない。

私は誰でもあるように望んだ。

そして私は愛おしくそのページに触れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0551ba/>

スリップ・アップ・キャンパスノート：幸せになる為の6ページ

2012年1月1日02時46分発行